

公益財団法人国際文化フォーラム
2020年度 事業計画書



2020 年度事業一覧及び各事業計画概要

ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業

1. 社会変化に対応し学びをデザインする教師研修の実施
2. 「学校のソトでうでだめし」プロジェクトの実施
3. 「りんごをかじろう」講座の実施
4. 学生によるインタビュー活動プロジェクト「ときめき取材記」の実施
5. ネットワークの構築と情報収集

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業

1. 日本の文化と人びと紹介サイトの運営
2. ロシアの中等教育向け日本語教材の制作
4. ネットワークの構築と情報収集

ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業

1. 日韓・中高生の交流プログラムの実施
2. 日韓の校長交流プログラムの実施
3. 日露教師・生徒交流プログラムの実施
4. 多言語・多文化交流プログラム「パフォーマンス合宿」の実施
5. ネットワークの構築と情報収集

エ. 広報事業

1. TJF の事業の広報
2. ネットワークの構築と情報収集

TJF は 2017 年に設立 30 周年を迎えましたが、2020 年現在、今を生きる若い人たちが 22 世紀を生きることも視野に入っただけではありません。創立以来、プログラム構築の上で重要視してきたポイントは第 1 期「海外における対日理解と内なる国際化をめざして」、1993 年からの第 2 期「異文化の相互理解をめざして」、2000 年からの第 3 期「小中高校生の相互理解をめざして ～互いのことばと文化の学びと交流～」と変遷し、2007 年から 2016 年の第 4 期「資質・能力の育成」の 10 年間については、『人間関係づくりから一歩踏み出し、社会を生き抜く力を育てることが、外国語教育の新しい役割である』と提言しています。

30 周年を機に始まった「多言語・多文化交流プログラム」は、日本語教育、外国語教育と限定しない新たなアプローチとして、自分を見つめ、互いを理解しあうことの難しさも楽しさも体験することのできる貴重なプログラムです。そして、もう一つ、同世代や大人たちと創作・表現活動に取り組む「学校のソトでうでだめし」の複数のワークショップでは、自分自身の内面と向き合い、環境問題や社会の仕組みも含めた人間社会の複雑さを体感し、多様性に満ちた社会を生き抜く力を育む良い機会となっています。

そこで、この新たな 10 年である第 5 期は「資質・能力の育成 2.0」とし、多様性・複雑性の社会で若い人たちが新たな価値の創造をするために私たちに何ができるか、という問いを立ててみたいと考えています。この問いから新たなプログラムを構築、提案するために、2020 年度事業ではいくつかの事業の見直し、縮小、新たな展開を見据えた試みを加えています。また、「多様性を生きる」若い人たちに TJF はどのような「新しいまなびの創出」をしていくことができるのか、これまでの経験と蓄積を生かしつつ、社会情勢や特に中高生、保護者の意識の変化などについて調査研究し、次のフェーズにふさわしいプログラムの構築をするために、十分な時間を費やしたいと考えています。

■学校のソトでうでだめし

社会構造や地球環境が激変し、多様化・複雑化が加速する時代を生きる子どもたちが、「世界や社会の課題を当事者として考え行動していく」際の糧となるような体験とはどのような事柄かを模索し、学校とは違うテーマや方法で表現、創造、思考、議論を体験することで、中高生が自分の思考を深め、視野を広げて感性を磨くとともに、学校や年齢をこえて多様な人や大人と関わっていくきっかけとなる場をつくります。

2020 年度は伝えたいことの本質と伝わることばの表現を追求する CM コピーづくりやプラスチックごみ問題の解決を切り口に価値観の違いを超えて取り入れられる仕組みを考えるワークショップのほか、演劇やダンスなどの創作的な表現活動を通じて多様性を生きることを体感できるようなプログラムの可能性を探ります。

■学びの探究とデザイン

子どもたちが社会構造が激変し、なにがどのように変化していくか予測がつかない時代を生きていくことを想定し、自ら設定した正解のない課題に取り組む探究学習を実施する学校が増えています。教育ができることを教育関係者と模索し、具体的な方法を提案、共有します。現段階では、社会状況と必要とされる知識やスキルがどのように変化していったとしても、自らの人生を切り拓くエンジンとなり得る探究心と探究を支える力を育むことを重視し、その方法をワークショップ等で共有、検討していきます。

■多言語・多文化交流パフォーマンス合宿

日本に在住する多様な高校生が出会う場をつくり、演劇ワークショップなどの交流活動を通して異なる自他を認識し、ありのままを受け入れ、協力して創造性を発揮する中で、多文化社会への理解力と対応力、参画力をみにつけてもらう機会とします。

今年度は一昨年の参加者の出身地である広島県安芸高田市で開催したいという申し出を受け、東京以外での開催に向けて準備を進めていきます。

■ロシア中等教育向け日本語教材の制作

2019 年度よりロシアの極東地域における初中等日本語教育の実施校を対象とした研修事業を実施しています。2020 年度は、ロシア中高校日本語クラブ用教材の作成に取り組みます。

2020年各事業計画概要

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
<p>公1 我が国と諸外国の児童及び青少年を対象とした外国語教育、並びに多様な文化についての理解を促進するとともに、教育及び文化の交流を推進する事業 115,337,244円(内、公益目的事業共通費用 78,093,966円 ※)</p>				
<p>ア. 国内外の児童・青少年並びに教育関係者向けの研修、ワークショップ、セミナー、シンポジウム事業</p>				<p>11,130,284円</p>
<p>1</p>	<p>社会変化に対応し学びをデザインする研修の実施 1,549,027円</p>	<p>通年</p>	<p>東京、オンラインほか 小中高校の教員を対象に、探究学習、プロジェクト学習、評価の理論・デザイン・実践をテーマとするプログラムを実施する。 ①稲垣忠東北学院大学教授に講師を依頼し、探究型の学びを分析・デザインするワークショップを行う。対面型のほか、地方や海外からも参加できるよう、オンライン兼用あるいはオンラインに特化したプログラムも試みる。 ②CMづくりワークショップ、対話型鑑賞、自己教育をテーマとしたワークショップなど、教師自身が、主体的・探究的な学びを体験するワークショップを行う。 主な講師(予定) 小崎悠太氏(ダイナミックラボ)、岡崎大輔氏(京都造形芸術大学アートコミュニケーションセンター)、近藤祐見氏(電通)</p>	
<p>2</p>	<p>「学校のソトでうでだめし」プロジェクトの実施 5,077,800円</p>	<p>通年</p>	<p>東京 さまざまな分野の組織や個人と連携し、中高生が、日常の生活では出会わない人たちと一っしょに、ふだんとは異なる体験をすることで、自分の思考を深め、感性を磨き、視野や表現方法などの幅を広げるとともに、学校や年齢をこえて多様な人と関わっていくきっかけとなる場をつくる。 2020年度は、探究・創造・協働のプロセスが凝縮されているCMコピーづくり、環境問題の観点から社会の課題を解決することについて理解を深めるワークショップ、身体表現などの創作的な活動を体験するワークショップなども実施する。</p>	
<p>3</p>	<p>「りんごをかじろう」講座の実施 692,590円</p>	<p>通年</p>	<p>東京ほか ①中高生が学校の内外で隣語学習に取り組むきっかけをつくるために、中高生のための韓国語講座(世宗学堂)を駐日韓国大使館韓国文化院と共催するほか、第二外国語の科目を開設している学校の協力を得て、さまざまな言語や文化の魅力を伝えるオリエンテーション講座を実施する。 ②来日する外国人が日本語を使って交流することを促進するためのツールとして、カードを使ったゲームを開発する。</p>	<p>共催:駐日韓国文化院世宗学堂、駐日韓国大使館韓国文化院(①のうち世宗学堂の講座のみ)</p>

4	学生によるインタビュー活動プロジェクト「ときめき取材記」の実施 1,477,867円	通年 ※勉強会:年度後半	ウェブサイト ※勉強会:東京、大阪	大学などで「日本事情」「日本語」を担当する教師の協力を得て、留学生を含む学生が興味のあるテーマに関係する人にインタビューし、まとめた記事をウェブサイト「ときめき取材記」で発信するプロジェクトを継続して実施する。2020年度はこのプロジェクトの意義や課題、さまざまな実践を報告書にまとめると同時に、これまで実践を重ねてきた2名に講師を依頼し、プロジェクトへの参加を希望する教師を対象とした勉強会を東京と大阪で実施する。	
5	ネットワークの構築と情報収集 2,333,000円	通年	各地		

イ. ガイドライン・教材・視聴覚資料・授業案の開発や提供事業 4,789,000円

1	日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営ーくりっくにっぽん活用術の充実ー 1,210,000円	通年	TJFウェブサイト	「くりっくにっぽん」「ときめき取材記」のコンテンツを活用し、思考力や文化理解を深める日本語の学習活動案をメルマガ「Click Nippon News」(CNN) (1ヵ月に1回、日英2言語、登録約800名)で引き続き提供する。メルマガで提供した活動案は「くりっくにっぽん」ウェブサイトのほか韓国高校日本語教師ネットワーク(会員約2,000名)のHPにも掲載してもらおう。	
2	ロシアの中等教育向け日本語教材の制作 2,669,000円	通年	東京	TJFの日露交流プログラムの第二段階の取り組みとして、日本語教材作成プロジェクトを実施する。2015年から5年間でシベリア以西の地域を対象とした研修等の交流事業を経て、2020年度からは極東地域の日本語教育・日本文化理解の活性化を図り、ロシア全土の初中等日本語教育のさらなる活性化のために、初中等教育向け日本語教材の作成をめざす。	助成:(一社)尚友倶楽部
3	ネットワークの構築と情報収集 910,000円			イの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げ事業化する可能性を探るとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。	

ウ. 互いのことばを学ぶ国内外の児童及び青少年並びに教育関係者の交流事業					13,140,329円
1	日韓・中高生の交流プログラム「ソウルでダンス・ダンス・ダンス」の実施 5,453,475円	12月26～30日	韓国・ソウル市	日本で韓国語を学ぶ中高生と韓国で日本語を学ぶ中高生の交流プログラムの第9回を実施する。日韓ともに全国の中高生を対象に募集し、定員は昨年度に続き各20名を選考する。宿泊はソウルユースホステル、発表会会場は、本格的舞台設備のある秀林文化財団(共催者)が運営する秀林アートセンターを使用する。また、本プログラムの経験者に運営に関わってもらふ。 プログラム中は、ダンス創作活動、買い物活動など、中高生が関心をもつ活動を行う。日本側参加者は往復国際航空運賃、宿泊費など実施費用の一部を負担、韓国側は会場までの往復交通費を負担。ただし、遠方からの参加者の交通費の一部を補助し、遠方からの参加を促す。	企画・共催:(財)秀林文化財団 共同実施:秀林外語専門学校、韓国日本語教育研究会 後援:国際交流基金ソウル日本文化センター(予定) 協力:高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク(予定) 輸送協力:ANA
2	日韓の校長交流 フォローアッププログラムの実施 50,000円			日韓の校長交流から学校間交流に向けて交流を深めるための支援を実施する。訪韓を希望する日本側の学校3校程度を予定する。	共催:韓国国際交流財団
3	日露交流プログラムの実施-極東地域の日本語教育・日本文化理解・日露交流の活性化- 2,496,000円	通年	東京、ロシア極東地域、オンラインほか	TJFの日露交流プログラムの第二段階の取り組みとして、ロシア極東地域の初中等日本語教育・日本文化理解・日露交流の活性化を図る。対象地域はサハリン、カムチャツカ、コムソモリスク、イルクーツク、ハバロフスク、ウラジオストクを予定。活動内容は、 ①日本語教師向けセミナーの実施、②日本語教育事情調査、③日本語教育実施校への教材寄贈とし実施していく。	助成:(一社)尚友倶楽部
4	多言語・多文化交流プログラム「パフォーマンス合宿」の実施 4,490,854円	8月	広島県	多様なことばと文化を背景に持つ若い世代が協力して「一人ひとりの個性を尊重し、多様性に富み、創造力を育む社会」を創れるようになることをめざし、さまざまな文化的ルーツを持つ高校生と多様なことばや文化に興味を持つ日本人高校生が参加する合宿を実施する。期間は3泊4日、参加者は30名程度を想定している。 2019年3月に実施した参加者の出身地である広島県安芸高田市から、当地での開催の希望があることから、初の地方開催を試みる。	
5	ネットワークの構築と情報収集 650,000円			ウの事業に関連する国内外の研究会や会合等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集とTJF事業の広報に努める。	

エ. 広報事業				8,183,665円
1	TJFの事業の広報 7,703,665円	通年	TJFサイト、メールマガジンほか	<p>①事業報告書およびパンフレットの作成 2020年度も、見てわかる事業報告『CoReCa』を発行する。また、財団のパンフレット日本語版の新規作成および多言語(英、韓、中、露)パンフレットの改訂を行う。</p> <p>②デジタル媒体を使った広報 日本語ウェブサイトおよび多言語(英、韓、中、露)ウェブサイトを運営する。 そのほか、メールマガジン(月1回発行)やFacebookを通じてTJFの事業を広く発信していく。</p>
2	ネットワークの構築と情報収集 480,000円	通年		エの事業に関連するセミナー等に参加し、ネットワークを広げるとともに、情報収集を行い、広報事業の充実につなげる。

※公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品費、賃借料など)